

この一冊で基礎から応用まで
わかる！使える！
これからの「会計と経理」

鶴田彦夫 著 PHP 研究所 刊
A5 版 263 頁 定価 1,470 円 (税込み)

評者：岩田壽夫◇千葉経済大学短期大学部教授

本書は、サブタイトルを含めて大変よくばりの本である。少々オーバーかと思われそうな“この一冊で基礎から応用まで”の実態は、「会計と経理」について基本から、関連する会計の各分野への展開、さらに将来までを、要領よく、適確に表現している。

それを証明するのは、本書の工夫された構成である。その一端を示すなら次の通りである。注：下線部分が本書原文、() 内は評者の付記。

第1章 ようこそ、会計・経理の世界へ（企業会計が行うこと、行うべきこと－企業会計の意義、会計諸規則、会計基準、会計監査など）

第2章 B/SとP/Lをマスターする（企業会計の結論書〈損益計算書と貸借対照表〉とそれらの応用など）

第3章 会社と会計の関係（会計税務、管理会計、経理部門の事務とこれらの基礎と簿記処理など）

第4章 資金会計と予算・原価計算（資金、予算、原価の管理運営など）

第5章 利益と経営分析のポイント（企業の利益、課税所得、経営の現状分析と将来予測など）

第6章 強くなる会社経営（外貨建会計、税効果会計、デリバリティブ取引、減損会計、会社再編、企業合併、ポートフォリオ、コーポレートガバナンス、環境会計などの新分野への挑戦）

このような構成をとった本書の意図を著者は、その“はじめに”の中で、「会計には固有の言葉があ

り、言葉は一定のルールによって表現されます。つまり、会計は、『会計固有の言葉』を用いることによって、企業の経営活動を表現するのです。本書は、企業会計の実践的な実務のノウハウ入門書です。会計業務を実践、展開する際に、知識・業務の再編に役立つ項目を重点的に取り上げ、企業会計の全体が俯瞰できるようにしました」と、構成する一つ一つの項目は、それぞれ一冊の本になるほどの専門的なものである。それを大胆にも一つの本にまとめている。本書を利用するだろう読者に、従来ある会計関係の本の補完的なものとしてではなく、それらを超越し、さらに会社法などに見られる会計の現代的な役割を盛り込ませようとする意気込みを感じる。だから、必要と思えない前文の末近くに「ただ、こうした制度推進者からの自己批判と呼ぶに値する反省の弁も聞きたい、とそう思ったからです」と本人の言葉が添えられている。

筆者への批評を行ったが、本書の利用者（読者や学習者として）側へはどうだろうか。

先日、山手線で某予備校の“表現力は学力”のキャッチコピーを眼にした。文字や言葉を考え、相手に理解させる工夫した表現が思考力を高め、学力を向上させるといふ。本書は、読者が理解しやすいようにいろいろと考えられ、随所に図や表などを用いている。本来の表現は、受け取る相手が単なる読者であれ、それが学習者であれ、著者の意図を受け、学力を高められる。難を言えば、一般の読者を想定しているため縦書きの本になっている点である（編集者の意向であると思うが）。内容的には横書きが適している。もう一点は、専門的な言葉と内容をもう一つ易しくして欲しい。

本書の利用は、現代の必要知識としての会計の知識や経理の仕事であるから、就職する人、就職しようとする人、経営人に薦めたい。特に、学校で簿記会計を指導している先生にも、持っている知識の整理のため、「会計」「会計実務」を新たに担当する場合など指導内容のバックボーンとして薦めたい。また、会計各分野の知識を得たい時はダイジェストとしても有効に利用できる。